

全国へ発信217

幼・保・小・中 一貫教育プロジェクト

中学生平和体験事業

阿久比町では、毎年8月5日と6日に中学生平和体験事業として中学校1年生を広島に派遣しています。この事業は平成10年に始まり、今回も8人の生徒が現地でさまざまな体験をしてきました。今回は参加した生徒の手記から、学んできたことをお伝えします。



【1年1組 市埜 友唯】

広島平和記念資料館では、見るのもつらい写真や絵があり、原爆の威力と原爆がもたらす悲しみの大きさを知りました。世界には、依然として核兵器を保有している国が多くあります。世界が平和であるためには、まずは原爆を無くさなければなりません。今回の経験を活かして、原爆の恐ろしさと平和の大切さを広めていこうと思いました。



【1年4組 安井 萌亜】

平和記念式典に参加し、今まで被爆者が伝え続けてきた「同じ悲劇を繰り返してはいけない」という思いを、次は私たちが伝えていかなければならないことを実感しました。そうすることが人々の命をうばい、体や心に傷を負わせ、街をつぶした原爆の廃絶につながると思います。今回の研修を通して原爆の恐ろしさを感じ、平和への関心がますます高まりました。

【1年5組 岩佐 和佳】

原爆で亡くなった方、今もその放射能や熱線によるさまざまな後遺症に苦しんでいる方が数多くいます。そのような人々には何の罪もありません。一瞬にしてたくさんの人々を苦しめることになった原爆の傷跡は、今もなお残ったままです。僕たちの世代が当時のことを知り、これからも伝え続けていかなければなりません。

